

平成 25 年度第 2 回吹田市立図書館協議会（会議録要録）

開催日時：平成 25 年 11 月 19 日（火）午後 2 時～4 時

開催場所：吹田市立中央図書館 3 階第 2 集会室

出席者

委員）渡邊委員、早瀬委員、島村委員、原田委員、中川委員、稲垣委員、末岡委員、黒木委員

事務局）川下地域教育部部長、小池地域教育部次長、竹村中央図書館長、宮東参事、西尾参事、金森千里図書館長、櫻井さんくす図書館長、廣本江坂図書館長、長島千里山・佐井寺図書館長、長千里丘図書館長、岩本山田駅前図書館長、中谷主幹

傍聴者：1 名

平成 25 年度第 2 回 図書館協議会次第

1. 学校連携について（まとめ）

2. 報告事項

(1) アンケート調査結果について

(2) 「平成 25 年度（2013 年度）吹田市の図書館活動」について

(3) 北摂市図書館比較について

(4) 退任委員の報告について

3. その他

(1) 次回日程について

(2) その他

議長）それでは第 2 回図書館協議会を始めます。まず始めに傍聴を希望されている方はおられませんか。

事務局）1 名おられます。

議長）では次に出欠状況の報告と配布資料の確認をお願いします。

事務局）《配布資料の確認と、出欠状況を報告》

議長）では本日の議題 **1. 学校連携について（まとめ）** に移ります。

議長）まず第一に学校連携のまとめということで、これまでの経過報告の後、議論という風に進めます。

1 年間学校連携をテーマに議論を進め、学校の先生にも話を聞いて実態の把握に努めました。図書館も連携をして行っているがなかなか進んでいないことが明らかになりました。少しでも進めていけるためのアイデア集を作ってはということで、まず、ベースとなる案を作成しあらかじめ各委員に送付しました。その後各委員より意見をいただいたものを取り入れて訂正案として送って

ます。ここで議論いただきたい。

H委員) こだわるつもりはないが、子どもと児童の使い分けについて提案したい。未成年という意味のところは子どもで良いが、具体的に小学校の児童が対象のところは児童にしたい。今回中学校を除く議論をしたのではっきり小学校対象ということで児童がふさわしいのでは。

I委員) 私は自然に読みました。ここでの論議は吹田市全体の子どもであり、学校生活をしている子どもだけでなく自治体に住む子どもすべてを学校生活以外も家庭生活をしている時もすべての時間において対象にするということで必ずしも児童という置き換えは必要ないと思いました。

F委員) 児童と明記すれば小学生と限定されます。問題はこのアイデア集を小学生向きと全面的に押し出していくのかということ。小学校編と書いてあれば児童が良いかと思う。

E委員) 同じように思います。

議 長) 始まりが限定したものではなかった。前提としては吹田市の公共図書館と小学校中学校を含む学校図書館との連携である。児童生徒両方を含むという形を持たせたいと思う。文部科学省でも子どもという言葉を使っているのでそれに合わせた形で大きく捉えたいがどうか。

B委員) 子どもが一生を通して図書館を使っていくという主旨であり、児童が生徒がと使い分ける必要はないと思う。子どもで良い。

D委員) 子どもというかたちでとるほうが臨機応変で柔らかい文章となってよいと思う。

議 長) 文部科学省でも「子供」「子ども」の2つの表記がある。そういう意味では「子ども」という表記についてはゆれがあると思うが、法律の表記では子どもとしてとらえている。

I委員) アイデア集の今後の取り扱いはどうなるのですか。

議 長) 中央館長に提出し、その後のことについては未定ではある。協議会として出した意見であるので、できるだけ反映してもらいたい働きかけをしていきたいが事務局の考えはどうか。

事務局) 中央図書館長として受け取りします。また、以前から報告していますとおり教育委員会内部の事務方と市立図書館との連絡会議を発足させましたので、そちらに情報提供し最終的には現場に情報が流れるようにしたいと思っています。

I委員) ホームページへの掲載は。

事務局) 掲載します。

B委員) II-3について、学校図書館担当の先生だけではどうしようもないことがあるので、教員全体の意識改革をしてほしいというようなことが入れられると良いのだが。

議 長) II-2であるようなプロジェクトチームの活動が全体に波及する形になればと

いう含みを持たせている。

B委員) 文庫活動の中で図書館に全然理解の無い先生に出会ったりすることがある。ぜひ意識改革をしてもらわないと始まらないという気持ちがある。

H委員) 図書館協議会としてそこまで言うのかというのが一つ。ただ進捗が見える物差しのようなヒントがあれば書き加えたい。

議 長) それは評価というようなものですか？

I委員) 評価はもう少し先のことではないか。タイムスケジュールのようなものを作るような書き方をしたいということでしょうか。年次計画を作ってもらおうというようなこと。現場に接触して苦労されてきてこれでほんとに動くのかというような不安があるということではないですか。協議会としてどこまで言えるかということではありますが、吹田市としてしっかりした推進計画をお持ちなのでそれに重ねてもう少し具体的な提言があってもアイデア集ではありますがあっても良いかなと思います。

H委員) それはロードマップのことだと思うのです。現在学校によって差があると思うのでそれは各学校で作成するしかないかと思う。ただし、進捗状況のみえる物差しがほしいということです。

F委員) 確かにこれを図書館協議会として学校現場に突き付けていくのは難しいと思うが、ただ「こんなものを作りました。」だけでは何も変わりません。学校現場にいかにか広めていくかというために学校からも参加してきているわけで、教育委員会、校長会、学校現場に流せるように図書館と相談していきたい。その後どんな成果が出てきたかは次の時に話せばよい。

議 長) 小学校対象になっているし未知の部分も多いので、評価については次に申し送りということではいかがでしょうか。

H委員) 本体の中ではなく、「はじめに」か「おわりに」の言葉の中で触れてはどうか。

E委員) II-2の表題と現状は違っているように思います。学校側の担当者というのは、吹田市学校教育研究会図書部会のことかと推測しますが、その部会と図書館とが交流をしているのですよね。この表題のように実質的に学校側と図書館が話し合いを出来るようにするにはどうしたらよいか、というような事は図書部会の先生方と議論していますが。

H委員) 現状はもっと手前の段階であるということですね。

議 長) 今後のステップとして考えていかねばならないことですね。

I委員) この表題のままだと現状を正確に把握していないということになりますよね。現実をわからずに提案しているということになります。

F委員) 中学校には必ず一人担当者はいます。

E委員) 小学校にも必ず一人担当者はいるが、公共図書館との連携の進め方を話し合うにはきちっとした取り組みが必要という事です。

- 議 長) 総論としてもこのタイトルは見直した方が良いということでしょうか。この学
研図書部会の交流というのは年1回ずっとされているのでしょうか。
- 事務局) かなり古くから続いています。途切れたりしながら最近積極的に交流できる
ようになっています。
- 議 長) では訂正したいと思います。
- E 委員) ここで書いてあるような内容を受け入れるには、なかなか人的配置が厳しく、
あれもこれも一気に実現しようとする現場はとても大変だ。リーダーシップ
をとり核となるものが必要だ。そうすればもう少し発展させられるかなと思う。
- 事務局) ここの表題だけとらえれば、既に学校側の担当者が各校において図書館と交流し
ているように読めてしまうので、学校と公共図書館との交流という言葉に変え
たほうが良いようです。私たちもそのように認識しております。
- 議 長) それでは誤解を防ぐ意味で「学校図書館と公共図書館」との交流ということに
します。特段意見がなければこれで今期の意見としてとりまとめさせていただきます。
それでは、「はじめに」と「おわりに」について意見はございませんか。
- H 委員) 今まで議論してきたことを次の協議会に託したいという部分を補足したい。あ
と、高校を含めた話は出なかったはずなので、高校は外したほうが良いのでは。
- 議 長) 学校図書館というくくりですので中学とともに高校も入れました。大学につい
ては図書館の分類では別になっていますので入れていません。
- H 委員) 「おわりに」の中でアンケートの実施が出来なかったことについて時間等の制
約がありと説明されていますが、もう少し理由を書いたほうが良いのでは。ア
ンケートを受け取る体制に無かったというのが大きな理由ではなかったでし
ょうか。協議会出席者にしか判らない記述というのは受容しがたい。
- 副議長) 体制といっても委員以外にはわかりにくいのではないか。
- H 委員) 広く意見を吸い上げる手段であるアンケートだからこそ理由をはっきりしたい。
- 議 長) 時間・体制等ということでしょうか。
- 事務局) 現時点での問題点が重なった結果ですので詳細を書くのは難しいのではないか
と思います。
- 議 長) 以上で、学校連携について(まとめ)を終わります。次に **2. 報告事項 (1)
アンケート調査結果について** を議題とします。事務局より報告をお願いします。
す。
- 事務局) 平成25年度図書館利用者アンケートの結果について概略を説明します。
—概略説明—
- ・達成度を7項目、サービス評価で21項目の計28項目を設定しました。
 - ・窓口職員対応館と委託館での比較ができるように集計しています。
 - ・全体的には窓口職員対応館と委託館で大きな差はでませんでした。

- ・20歳代が少なくなっているのが現在の図書館の問題点であると認識しています。
- ・生活圏内の利用者が多いのは予測どおりです。
- ・身だしなみで窓口職員対応館と委託館で差が出ました。
- ・お問い合わせで委託館のほうが窓口職員対応館より満足度が高かったのは、委託館ではレファレンスカウンターを別途設けてゆっくり対応ができるようになったため、満足度が上がったと思われます。
- ・一方レファレンスに対する認知度はまだまだ低くPRが必要です。
- ・その他のサービスで認知度の低いところは努力の余地があると考えます。
- ・満足度が79.9%とアップしました。次回には80%を超えるように努力したいと考えています。
- ・自由筆記欄にたくさん意見をいただきましたが、件数だけ述べさせていただきます。
- ・次回も比較ができるように内容を考えていきたい。紙での実施は労力も多いのでHPの利用なども考えていきたい。

議 長) では質問、意見等ございませんか。

H委員) 経年変化もこういうグラフで示せないか。

事務局) これで2回目なので次回以降考えてみたい。

I委員) 自由記述で印象に残ったところがあれば教えてください。

事務局) レファレンスについて職員の個人差が出ているようです。インタビューの技術や図書館資料を把握する努力が必要かと思います。コンピュータの検索結果のくせなどもあり、そのあたりはシステムの更新時に職員の意見も反映させてシステム開発をしていきたい。その他お褒めの言葉も頂戴しております。

議 長) 次に (2)「平成25年度(2013年度)吹田市の図書館活動」について を議題とします。事務局より報告をお願いします。

事務局) 昨年度より大きく変わった点についてご報告いたします。

- ・沿革では千里図書館の移転、千里丘図書館供用開始、それに伴う自動車文庫の駐車場の見直しがありました。
- ・公式アカウントによるFace book と Twitter での情報提供を開始しました。
- ・施設の概要のページに千里図書館と千里丘図書館を修正追加しました。
- ・学校との連携では初任2年目社会体験研修の受入れを始めました。
- ・豊中との広域利用サービスは1館ずつ増えて4館ずつで実施しました。
- ・蔵書冊数は約7万冊増加しました。貸出冊数は対前年度比約4パーセント増加しました。
- ・もうよんだかなセットの貸出が昨年度より大幅に増加しました。

議 長) では質問と意見を受け付けます。何かありますでしょうか。

- B委員) 初任 2 年目研修は全員ですか。
- F委員) 初任者研修は 10 年ほど前からあって 1 年目はたくさん研修があるが、2 年目も何か続けたほうが良いのではないかと、吹田市が独自に作った研修である。希望者だけですので全員ではありません。
- I委員) 21 ページ「自動車文庫団体貸出」について説明してください。
- 事務局) 学童保育にも自動車文庫で団体貸出しに行っています。毎年利用調査し予定を組んでいます。
- 議 長) Facebook と Twitter のフォロワー等は現在どれくらいでしょうか。
- 事務局) Twitter のフォロワーが 60 数名程度、Facebook で「いいね」を投稿していただいた方が 200 名程度です。基本的には Twitter は文字が主体で行事の案内です。Facebook は写真入りであげているので季節感も反映させられています。市役所の Facebook 及び Twitter と連動した情報交換もしています。
- H委員) 広報についての予算もないし実績報告も載っていない。広報はしていないのでしょうか。
- 事務局) 電子媒体や紙チラシなどで広報はしていますが、その総額という形では出していません。
- H委員) 例えば、本はどうやって購入しているのかとか、コミック導入の総括など広報してほしいと具体的にテーマを提案した。お問い合わせの回答などは貼ってあるのを見ますが、様々な情報を図書館の方から発信してもらいたい。
- 事務局) 来年度以降、可能なことからお知らせしていきたいと思います。
- 議 長) ほかになければ、**(3)北摂市図書館比較について** 事務局から報告をお願いします。
- 事務局) 平成 24 年度予算の報告時に、北摂各市はどうなのか知りたいというご意見があったので調査しました。社会教育費と図書館費のくくり方が市によって違いますので、一般会計歳出予算全額と図書館費での比較が有効かと思います。従前より市財政の 1 パーセント以上を図書館運営に投入できるかどうかというのが一つの指標と言われております。吹田市は 1.1%、豊中市が 0.76%、箕面市が 0.77%、池田市が 0.64%、茨木市が 0.89%、高槻市が 0.79%、摂津市が 0.40%となっています。平成 25 年度の予算では吹田が一番割合が高くなっています。
- 議 長) 次に **(4)退任委員の報告について** を議題とします。事務局より報告をお願いします。
- 事務局) 現在の第 5 期委員の任期満了にともない退任される委員が 3 名おられます。A 委員は 2 期目から 8 年にわたりご尽力いただきました。G 委員と H 委員については市民委員として 2 年間貴重なご意見をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。本日ご欠席の委員の方からは委員の皆様への丁寧なお礼状を頂戴しております。

議 長) それではH委員よりごあいさつを頂戴したいと存じます。よろしくお願ひします。

H委員) あいさつに代えまして、協議会の体制、運営について数点の提案を申し上げます。

1. 市民委員の数をもっと増やしてはどうか。
※事務局注：現在吹田市立図書館協議会委員10人のうち市民委員は2人
2. 図書館協議会で事業計画を承認しそれを同じメンバーの同協議会が評価をするのは「予算」委員会が「決算委員会」を兼ねるようかどうかと思う。別に評価委員を公募してはどうか。
3. 回数が減ったのでやり方を考える必要がある。議長副議長が図書館の専門家だがいずれか一人を民間法人の管理・企画部門経験者にするのも一法。
4. 資料の作り方も工夫が必要では。年間奉仕計画など館ごとに発表するのではなく総括表などを作って一目で見られるようにすればよいと思う。
5. 各団体からの委員選任については、図書館から出席・事前準備等の要望もだして決定してもらえればと思う。

議 長) ありがとうございます。では、 **3. その他(1)次回日程について** を議題とします。事務局より報告をお願いします。

事務局) 第6期第1回 平成26年2月25日(火)を仮の日として調整させていただきます。

議 長) では、最後になりました **3. その他(2)その他** に移ります。何かありますか。

事務局) 前回、審議会委員報酬の改定についてご報告いたしましたが、議会での議決に基づき削減しない事となりました。第6期委員につきまして変更はございません。

事務局) 今や図書館サービスでスタンダードになりつつありますビブリオバトルを中央図書館でも実施いたします。

----- ∞ -----
本要録ならびに配布資料は、吹田市立の各館及び情報公開課で閲覧可能です。

要録作成日：平成25年(2013年)12月20日

「学校連携を進めるアイデア集」はこちらからご覧いただけます。

http://www.lib.suita.osaka.jp/kyougikai/image/kyougikai25_2_2.pdf